

新学校点描

新年早々、ランチルームの凍った蛇口を暖房でしばらく溶かしてたら、水が溢れてしまいました。全職員で床の水を懸命にくみ上げた新年のスタートです。

《M中学校》

NO.15 R4. 1. 18

担当：校長

1月6日（木）年始休業あけの集会を1時間目に持ちました。まだまだ温まりきっていない体育館の中でしたが、多くの生徒がしっかり話を聴いてくれています。校長の話では、”思い込みのマジック”について話をしました。途中、2つのクイズを入れましたが、ほとんどの生徒が反応してくれました。その後、生徒会から副会長のK・Eさんが話をしてくれました。そして各学年代表で1年のH・Sさん、2年のM・Aさん、3年のM・Hさんが、これから目標を語ってくれました。3名とも、堂々として、全校生徒に自分を振り返させることの大切さを気づかせるような素晴らしい内容でした。

県中スキー大会が、クロスカントリースキーは蔵王坊平で、アルペンスキーは最上町赤倉で開催されました。結果、女子3Kフリーで、1年のT・Aさんが3位、3年のK・Sさんが4位、1年のC・Mさんが5位、3年のY・Aさんが6位、2年のS・Hさんが7位となり、全国大会を決めました。男子5Kフリーは、2年のK・Jさんが2位、3年のK・Tさんが4位、3年のY・Mさんが5位、1年のY・Kさんが8位となり全国大会を決めました。女子3Kクラシカルは、S・Hさんが3位、T・Aさんが4位、Y・Aさんが5位、K・Sさんが6位となり全国大会を決めました。男子5Kクラシカルは、K・Jさんが2位、K・Tさんが4位、Y・Mさんが6位、Y・Kさんが7位となり全国大会を決めました。3日目のリレーでは、男女で優勝となりました。アルペンスキーでは、SL（回転）で1年のS・Kさんが7位となり、翌日のGSL（大回転）では10位になりました。SLで全国大会を決めました。1年生で有望株だと、M上中の校長先生が教えてくれました。

本校の事務補助のT・Kさんは、中学時代にクロカン部で合宿や大会等に打ち込んで身心ともに鍛えられたことを時々話してくれます。「あのクロカンで懸命に努力した中学時代があったからこそ、今でもいろんなとき頑張れます。」と語ってくれます。

誰も知らないところで

先週は、クロスカントリースキーの引率として、金曜日から蔵王坊平で過ごしました。もう先が見えないほどの吹雪の中、やっとのことで宿泊地のロッジにたどり着きます。選手達はすでに練習をしていて、その後はワックスの調整をしていました。「お疲れ様です！」私を見つけて、スキーパーのS・Hさんが元気にあいさつをしてくれました。

毎日夜にミーティングです。明日が最終日の大会2日目の夜、Oコーチが、明日の大会のポイントや、準備の大切さ、これまでの生活でダメなところを厳しくも、温かく指導してくれています。「校長先生からも一言お願いします。」とOコーチから促されました。最終日は仕事の関係でリレーの前に下山するため何かを言おうとは思いますが、スキーに関して門外漢のわたしにはいまさら選手に言うことなんて思い当たるはずもありません。

クロカンスキー大会期間は、朝の5：45分から、散歩や体操が始まります。冬山の早朝は真っ暗闇で時々吹く吹雪の寒い中、選手達が黙々と大会の準備に備える姿は、その場で一緒にいた者しかわからないものです。

辛いことに挑戦するという場がだんだんと少なくなっているように感じます。今の生徒の中には、最短距離で楽して陽の当たるところに行こうとする考え方の生徒がいるように感じます。陽の当たるところにいくためには、誰も知らないところで、誰も見ていないところで努力しなければ辿り着けないということに気づいていないように思います。それはもう古い考えなのでしょうか？



最終日のミーティングの時にいただいた時間でわたしはこんなことを言いました。

「こんな過酷な競技に青春を打ち込んでいることは多くの友人達は知りません。それでも精一杯やりましょう。みんなが大人になって、家族をもったときに、胸を張って、中学時代はクロカンに一生懸命取り組んだと胸を張って語るためです。もし全力を出し切ったら、きっとその後の人生において、この経験が苦しさから助けてくれるのです。」とだけ話しました。

部屋に戻り、テレビをつけると、ちょうど体操の内村航平選手が引退したことが話題になっています。「リオ五輪以降は、練習が急に思うようにいかなくなってしまった。本当にいろいろ工夫しました。東京五輪は、リオ五輪までとはほど遠い結果でしたけど、体操を突き詰めていく所で考えると、一番濃い5年間だったとおもいます。栄光も挫折も経験できました。」すがすがしい表情で語る姿には、きっとわたしたちの知らないところでの苦労と努力を積んできたことが想像できます。

インタビュアーが「今まで覚えてきた技の中で最も印象に残っている技は？」と聞きました。「『蹴上がり』。小学校1年生の前かなあ。あの時の記憶が今でも覚えていて。クラブでもすごく技を覚えるのが遅かったので。がんばって出来たときの、あの感動は忘れられません。」

500以上も身につけた技の原点は、たとえ人と比べて遅くても、人知れず練習してできたときの「蹴上がり」だったそうです。

11月18日付けのY形新聞に、M中スキーパーの男女リレー優勝が掲載されました。

暗闇の中で吹雪に負けずに歩いている部員の姿を想像するのはわたしだけかもしれません。

きりと

ご意見・ご感想をお願いします。
